



中村俊定文庫
文庫 18
449



丁〜心〜幽〜
筆〜
備〜
今〜
昔〜
詞〜
あ〜

去年の夏
静〜
海〜

何〜

風律書

字
乃
序
如
芥

字
乃
序
如
芥

字
乃
序
如
芥

字
乃
序
如
芥

さのよきまのしんじゆ

梅のつぼみ

梅のつぼみも香のつぼみも

貫千

梅のつぼみも香のつぼみも

冬芽

梅のつぼみも香のつぼみも

梅のつぼみも香のつぼみも

梅のつぼみも香のつぼみも

梅のつぼみ

梅のつぼみも香のつぼみも

梅のつぼみ

梅のつぼみも香のつぼみも

梅のつぼみ

梅のつぼみも香のつぼみも
梅のつぼみも香のつぼみも
梅のつぼみも香のつぼみも
梅のつぼみも香のつぼみも

梅のつぼみも香のつぼみも

梅のつぼみ

梅のつぼみも香のつぼみも

梅のつぼみも香のつぼみも

梅のつぼみも香のつぼみも

梅のつぼみも香のつぼみも

梅のつぼみ

花やあゝ片わと月う望みあり 華狂

とも青も 踏をあし 山 稿 去 留

海はあ乃ゆきけり 四或の亭
~~~~~  
病の床あまぬらう~~~~~  
御座れ御座れ 御座れ 御座れ  
尼の旅くまれ 尼の旅くまれ 御座れ  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

ちと 傍 佛も 心 へ 結 けり

尾 流 記

四季道歌

春 花 如 夢 半 夜 渡 如 妓

夏 花 如 夢 半 夜 渡 如 妓

秋 花 如 夢 半 夜 渡 如 妓

冬 花 如 夢 半 夜 渡 如 妓

樂道を志すは友りくも遠固

と世生るも勿れおけりともこころは

枕一つはまのりみりうらとや

あはれけり

二藤うゑりもおふり

如芥

ふか菴

雪もやふりて

雪乃中

雪午

雪一はや月を川にも

むくけけ分旅を信と

海流下結と白ひやあ

際く乃骨おのり

初けり

冬芽

合顔此あをさうて

名月やしのめはあ乃

白妙や信藤は

文と書月

新白や雪もむいふと雪の火打の如

秋江

也言一羽あまもさきくは里のさく

梨英

新文を和し一店や雪乃花

以柳

唯清と余はさきさきと雪のふ

梅嶽

多事目の女くはくはくはく

湖海

又くくくはくはくはくはく

陸志

約清とまきみさくはくはくはく

千步

汝風乃やうく門の庭う那

蘭香

以秋や月柳織と心様乃音

竜鏡

雪やりふはくはくはくはく

東雪

諸國四詠

侍后

福山

層氷やしらくもそもよまふと

恒懸

車之座の宮のほ白もや松抱乃花

声道

水鳴や岸の坂もや梅は穀

竹亭

波のうねる月や明石の浦は花

市扇

咲時乃まの松もわさ落もそ花

李窓

清まの味もかりやまゝもそ花

榴宇

まのほや松もそ花もそ花

女鹿柳

松海、緑もかりまゝもそ花

龍湖

名もそや明もそ花もそ花

其卜

花もそや花もそ花もそ花

花相

花もそや神垣もかり花もそ花

桃菊

花もそやまのそ花もそ花

麻洞

と鈴もそ花もそ花もそ花

雷洞

花もそや花もそ花もそ花

東隣

水かたし不夜の御や 栲布多き
 不夜乃くまをさるる 椿こゝろ
 空ふき蝶もまわす 夜ふか
 不雨や今あらしく 子まき
 雲夢や ありは雲の色ゆき
 福まわや ありは雲の色ゆき
 雲のくせく 削るや 秋のくれ
 初もや一瑞々の 花 春まき
 久舟
 成州
 為塚
 三原 梨陰
 子席
 可習
 藍水
 倚松

海つきく 二夜乃月もや 露衣
 くらげや ありは人を引てけり
 鏡なく 海つ おやう 無ん 乃 記
 寐うへ 月も 己の 月も 己の 月も 己の
 酔ぬり 其 其 其 其 其 其
 新 新 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 家の 家の 家の 家の 家の 家の
 山 山 山 山 山 山
 歩 歩 歩 歩 歩 歩
 尾道
 梶 坂
 喜 坡
 小 代
 我 睦
 一 飛
 宇 江
 歩 来

振袖を以てしてけりてふれ 嘯月

踊りて是を看して一葉か 我雷

ゆり神衣を以てして紅花を 類之

舞や相立乃細工と目善か 石屋

白あうけく指入るは法外 砂米

新衣を脱ぎてはさきぬら 河洲

菊乃花香を満くはるる 百市

折る花はハワ桐とあり 杜若 梅谷

月を以ててはるるを 文飛

侍中

春雨や以てはるるを 春雨

流るる水は居る様乃 著杉

空を以ててはるるを 雲南

孤を以ててはるるを 白扇

行是を以ててはるるを 簾子

以ててはるるを 柳樂

雪の白く花を結ぶ乃花以うゝ女万礼

木をのほぐすも世に技乃者女西極

神そのひ帯にかぶつ糸糸結表處

うらむのちやるる糸糸を極此先 猶亦

扱回此尻もあつぬ目者さう程 徐立

虫何れや 亮を双紳五ちうゝ 季杖

一二端端乃来て咲く挿け 凡枝

茶乃水り一枝ゆへ人茶をの巻 卓尔

照りぬるき星をさへりや之後 思之

一口きちも吟らゆり一唐うゝ鴨方 麦二

留まると一人を笑り杜宇 呂長

くまのちり夢窓一物着乃中 求古

まゝくゞき教を根うゝて時多り 一初

予かうゝ笑や筆を乃袖一う程 如紅

夕とれや露の澄乃 一あり音 土手下 可蝶

初秋や海へちをき水なる者 里萍

山手巾捲さるゝぬ 手巾此山 栂鏡

枝のゆる杖の 手巾かよふ法 杏川

若くも巾袖の 障子日明 柳繁

浴衣のかりり 手巾此山 松吾

まよふとこれの 手巾かよふ法 八景 栂江

安藝

月乃表さる角 手巾かよふ法 風律

その中の牡丹や 若も花水之能 春雨

花の如や花よ 手巾かよふ法 連方

手巾かよふ法 手巾かよふ法 某菊

手巾かよふ法 手巾かよふ法 臨二

手巾かよふ法 手巾かよふ法 八桂

手巾かよふ法 手巾かよふ法 春杖

手巾かよふ法 手巾かよふ法 杉又

手巾かよふ法 手巾かよふ法 亭子

手巾かよふ法 手巾かよふ法 一郷

一葉

雙六乃うーしほく指りあひ出 以文

木粘ーやわらゆつり葉の字根と 松舟

甚しき葉やお葉をなと十年目 榎糸

枝、葉の老若の森や つ葉の根 大樽

口を合や葉のうへあふしより 可朋

木節うー一編あふくーけりてーうぬ 柗沙

又月面や枝木界と木曾乃谷 芦滴

山溪流乃流の流音を帯ー此不 涼葉

卯乃也や初げとてふ 園香家 楊色

錦糸や葉のあはるーしほく 五席

錦糸の葉の葉の葉の葉の葉 郷洞

葉の葉の葉の葉の葉の葉の葉 羽人

葉の葉の葉の葉の葉の葉の葉 風窓

葉の葉の葉の葉の葉の葉の葉 太乙

葉の葉の葉の葉の葉の葉の葉 板北

葉の葉の葉の葉の葉の葉の葉 松波

必も實も有て隠者乃柳の白 葉支

葉支

小倉

柳の白 葉支 十子

春の白 葉支 素葉

春の白 葉支 春満

水汲此 柳の白 素尾

素尾

柳葉

葉の白 葉支 蘭里

驚くや 柳の白 一薪

柳葉

福屋

白川の 柳の白 秋の

清流り 柳の白 片白

一柳の 柳の白 椿子

作向く 柳の白 椿子

柳の白 葉支 為文

柳の白 葉支 杏麻

杏麻

夕露也 抄くく 怡人 白 紗業

茶のあり 名物 存の 柙 枝目 里 風

二之日を 高し 界や 花 越木 月 湖

之 入る 沢 春 戸 田 植 李 立

岸 や 一ツ乃 水 泡 も 嘆 鳥 竹

毒乃 不 多 折 人 惜 之 月 計 圭

山 吹 也 已 日 暮 上 而 后

之 乃 接 和 夕 今 新 の 終 倉 極

河 敷 下 四 条 乃 涼 水 橋 十

庭 陰 也 名 なき 之 乃 新 湖 天

浪 道 也 柳 葉 乃 筆 や 心 け 後 川

ひ ち づ け 柳 葉 也 其 木 立 一 峰

怡土

枝目

越木

山色

厂田

春吉

流極

吾等

之糸

長門

宇都

周防

山口

澄夜

牧子

一册

播磨

一 早稲の足掻町乃

朝や

半橋坊

表小川

誦教寺 足かたの寺とて已の歌をうたへり

炭南

喜もまゝ十通のうらみ 小寺の山

山寺坊

言砂

七事の日乃さねとあり 夕のそら

音習

林田

梅のやうにむらさき 明のそら

雁来

大野

隣りの河のそら 秋のそら

字竹

流石

讀く花を 月をかくゆきぬ 虫拂 木卯

空のそらや ありくく 笑ひたり 袴仙

空のそら ありの音あり 其のそら 大里

丹後

春の空を 羊を飼ふとて 活水のそら 麦士

一人の空を ありくく ありくく 踏山

伊予の空を ありくく ありくく 鳥秀

本町の空を ありくく ありくく 鹿牛

高き川きりきり乃水句
久養 松居

高くと杉の枝りて落多
漆 支百

高き心しきつれ心
田 杜仲

加賀

京へゆく宿きりきり
津 見風

初きりきり
金 竹

水乃面水陽きりきり
水 感

飛

床りきり月も初
言 燕

高き心しきり
桐

渡

高き心しきり
心 丈

高き心しきり
南 吟秋

高き心しきり
津 里桂

高き心しきり
巴流

馬道きりきり
可

世

松

常陸

風守も人まらふや

喜北雨

水戸

五峰

武蔵

日乃霞の空も舞々や

江超

高明

新々 宿を宿々 啼てり

雨月

人 却り 足身を吹や

招建原

雪乃雪々 うち 白きく 巖 うち

英太

駿河

来々々れ 枝も折ぬり 山さう々 乙 思

吉原

伊勢

行 行乃う 一うの 園 一 おり

津一

日坊

ほ 々々 月 待を以 入り

久市

桃 溪

仔細

の 葉 々 葉 那 板 下 ず 舟 出

上野

松 舟

情 々 や 日 菊 乃 花 一 ち け 々 葉 々

冬 李

何 風 中 々 吹 々 音 乃 葉 向 々 吹

可 全

松

物あらし 川に流る 馬の跡 春境

さよのゆめ 夕了此雨もきつもの 舊国

華語

あつ白つやりのてあさのきよせらる 尾 徳九

掃除掃に粒はくくと松樹が 本 定

此あつを一つ啼をうんふ易 素 流

此あつを一つ啼をうんふ易 素 流

足弱のこゝをさるる 清 有 世 竹 比

一瓢に飲もきき 彦一 彦一 可因

又くわんや西条う橋も夕く 宣 甫

赤く身よりくさぬ山も 極 妙 竹

枕に解少く柳乃是のそつれり 柳 志

鏡に笠立をうつく通る清水哉 席 白

解る方 向く 吾 東

日もとわく 吾 東

旅うかたつくも 魂 糸 又 倉

十巻懐土へも以集りて吹送へる事
 撰者何れしを考るる事
 此の序の巻へ

明和四年の秋も牛りしと云ふ序
 初めよくしむる取束しむる序の巻へ

鶴の巻と梅の巻

蕉門野坡流琳譜書目録 系書町之條上之町 額田守之布 板行

野坡吟草 高津翁代集 洛 風之撰 四冊
 枕の巻 武州鉄文 百梅撰 一冊

門司観 豊前 程十撰 二冊
 梅の巻 備後福山 素淡撰 一冊

教の舟 筑後 木而撰 一冊
 竹の巻 豊前 岱梁 百越撰 一冊

向日岳 肥後 素朝撰 一冊
 屋をり塚 造蕉翁幸回 十二八 洛 梅従撰 一冊

初陽堂 筑前 柱五撰 一冊
 かれ巻 洛 文下撰 一冊

つゆ子 同 免城撰 一冊
 紫れ巻 筑前 若屋 素朝撰 一冊

三日の巻 野翁追善 梅従撰 三冊
 宿の巻 都外子追善 同赤間 里舟撰 二冊

十三題

浪花 梅徒撰 五冊

宋の海月

筑前 宇白撰 二冊

宍の春

日 浮風撰 二冊

龍くさ

小文字追善 江棧撰 一冊

蓬の春

備後福山 和吹撰 一冊

小はるき

洛 江棧撰 一冊

谷の春

備前中 如芥 貫千選 一冊

新門流

古桂撰 二冊

西の春

備後福山 笠橋撰 一冊

掃まつ

春白撰 一冊

身家記

正風指南 九十九卷 風之撰 一冊

秋の停遠

信中連 六推選 一冊

朱白集

芭蕉翁 石碑集 三冊

子かてん

江棧撰 一冊

芭蕉翁の系

一冊

砂月

和翁撰 一冊

竹の系

蘇州廣嶋 風律撰 一冊

名所

豫州松 斗坡撰 一冊

義生之流

筑前福岡 器水撰 一冊

言

筑前福岡 江棧撰 一冊

湖の系

洛 諸九撰 一冊

賞

筑前朝倉 市遊撰 一冊

十日

筑前朝倉 遊五撰 一冊

雪

筑前福世 杏麻撰 二冊

新

同春吉 計圭撰 一冊

鏡

筑后三原 金持撰 二冊

と

江 洛文下撰 一冊

紙魚日記

江 凡律撰 一冊

あ

唐 水容撰 一冊

秋乃燕

筑福 似及 一冊

厚

估后府中 貫千撰 一冊

冬

滄曙

